

# 変わる日本の「暮らし」と「まち」

未来を担う子どもたちの夢を乗せた  
新しいコミュニティの拠点が誕生

宮城・石巻市新門脇地区  
復興土地区画整理事業  
(2013年・平成25年)



阿部民子

text by Tamiko Abe

illustration: Shigeyuki Sakata

東日本大震災から、早くも6年半以上の月日が流れた。インフラの復旧や住宅建設など大規模なハード事業がほぼピークを過ぎたいま、震災で傷ついた地域コミュニティを再構築する、あるいは新たに生まれたまちでコミュニティを構築するために、さまざまな試みが始まっている。

## 新しいまちの新しい公園

この夏、1つの新しいコミュニティ拠点が誕生した。場所は石巻市の南にある新門脇地区。旧北

上川と日和山に抱かれ、江戸時代には仙台藩の米を江戸へ運ぶ千石船でにぎわった歴史あるまちだ。東日本大震災で壊滅的な被害を受けたこのまちも、昨年12月にはすべての復興公営住宅が完成、今年3月には宅地や道路もほぼ完成を迎えた。新しい門脇は、海岸防潮堤と、その内側の高盛土道路の二重の壁で守られる、災害に強いまちに生まれ変わった。

8月19日、その一角にできたかどのわき西公園と緑道の完成を祝うお披露目会が開かれた。オープ



中学生の思いが実現した公園で新しい形のコミュニティがスタートする。

居が始まりましたが、みなさんいんな仮設住宅から来られているので、1つにまとまるにはどうしたらいいのかが大きな課題でした。お年寄りも多いので、家の中に閉じこもって孤独になるのも心配です。だから、この公園ができて、新たなコミュニティションが生まれるのがすくうれしいですね。これからは、お年寄りも子どももお母さんも、みんなこの公園に集まって、快くお話できる場所にしたいですね」

## 公園づくりに中学生が参加

新門脇地区では、新しいまちづくりにあたって、かどのわき西公園を含めた3つの公園を設けた。この公園づくりに大きく関わってきたのが、石巻市立門脇中学校の現3年生だ。そのなかには、震災で全焼し廃校になった旧門脇小学校卒業生も含まれている。

子どもたちと一緒に公園づくりを考えてきたのは、公益財団法人日本ユニセフと竹中工務店、山形大学地域教育文化学部の佐藤慎也教授とその仲間だ。東日本大震災を受けて、「子どもと築く復興ま

ちづくり」プロジェクトをスタート。全6回のワークショップを開き、公園のコンセプトからガーデンデザイン、遊具に至るまで、子どもたちの希望をくみ上げてきた。

佐藤慎也教授は語る。

「今回のプロジェクトは、事業を進める石巻市さんとURさんに、『未来を担う子どもたちと一緒に公園づくりができないか』とご相談して始めました。子どもたちのアイデアは、海をテーマにした公園というコンセプトや、船をモチーフにしたベンチ、高齢者の方にも楽しめる健康遊具の設置といった具体的な形に生かされています。子どもたちにとって、公園づくりに関わった記憶が将来にわたって熟成され、10年後20年後にここでまた皆で集まることができるといいですね」

門脇中学校3年生担任の木村美恵先生も、子どもたちの活動の様子を温かく見守ってきた。

「子どもたちは、3年間の活動を通して、門脇の歴史や地形などのフィールドワークなどを行い、自分たちのまちにあらためて愛着を覚えたようです。微力ながらも自

分たちがまちづくりに関わっていることが誇りのようで、他校との交流会でも自慢げに話しています。この公園ができるのを、みんなすごく楽しみにしていたんですよ」

## みんなが交流できる拠点に

コミュニティづくりの縁の下の力持ち的存在になったのがURだ。石巻市からの事業委託を受け、新門脇地区の復興土地区画整理事業と復興公営住宅を一体的に整備。かどのわき西公園と緑道、隣に建つ門脇西復興住宅の計画、整備も手掛けている。同時にURは、復興を支援している各地で、ハード面だけでなくコミュニティづくりなどのソフト面でもさまざまな支援をしている。今回の公園づくりでも、中学生たちのプロジェクトへの応援を続けてきた。UR石巻復興支援事務所長の松原

ニングをにぎにぎしく飾ったのは、宮城県栗原市から応援にかけつけた和太鼓チーム「鼓風(こふう)」の勇壮な太鼓の音。公園の隣に建

つ門脇西復興住宅の団地会会長を務める富和一郎さんは、その様子を感じ無量の面持ちで眺めていた。「昨年12月にこの復興住宅への入

弘明は説明する。

「この公園は、竹中工務店さんを始めとする事業者とURが2年ほどの年月をかけて中学生のみならずの意見を聞き、具体的な形に落とし込んでいきました。地域の方々と門脇西復興住宅の方々が交流できる公園、子どもから高齢者の方までみんなが楽しめる公園、そして門脇の前に広がる海をイメージする公園、といった中学生たちの思いを実現したいとやってきました。希望をできるだけ現実化するための難しさはありましたが、今日は地域の方々に『やっとくつるげる場所ができた』と喜んでいただいていたホッとしましたね。これからは、新門脇地区の顔となる空間になるよう願っています」

お披露目会が終わった公園では、ベンチで語らう人や遊具で体を動かす人、元気に走る子どもたちの姿も。新しいまちに住む人々をつなぐ拠点としての役割は、既に始まっている。

街に、ルネッサンス

UR 都市機構

一日も早い東北の復興へ 全力で取り組んでいます

【企画制作】新潮社